

ISO9001試行工事(H12～14)の結果について

1. 試行工事の目的

請負者が ISO9001 を認証取得することは、請負者の自己責任に基づく品質保証が可能であることが期待できる

これを活用して受発注者双方の業務の効率化を図るため監督業務の効率化を図ることとした

しかし、監督業務の効率化を図ることは、品質面への負の影響を与えることが懸念される

このため、この課題を検証すること及び書類の簡素化等の運用面での改善も検討することを目的として ISO9001 試行工事を実施した

2. 試行方法

ISO9001 の認証取得を入札参加条件とする

段階確認等の監督業務を、原則として請負者の検査記録の確認と品質記録の把握に置換えることにより、監督業務の効率化を図る

平成 12～14 年度において 308 件の試行工事を実施【表 - 1】

【表 - 1】 ISO9001試行工事の年度別件数

年度別件数	H12	H13	H14	合計
一般競争入札 (件)	18	74	40	132
公募型 (件)	14	57	77	148
工事希望型 (件)	0	12	16	28
工事計 (件)	32	143	133	308

3. 試行結果のまとめ

品質面への影響について 〈一般競争〉

H12～H14に132件(23%)のISO9001試行工事を実施した監督業務の効率化に伴う品質面への負の影響は認められなかった【表 - 2】

- ・ 試行工事(監督業務を効率化した場合)での工事成績評点は、従来の監督業務を実施した場合と比べ、「出来形」、「品質」、「出来栄え」、「総合評点」の点数において、ほぼ同等である

【表 - 2】 試行工事における工事成績評点の比較 〈一般競争〉

工事成績評点 〈一般競争〉	試行工事 (監督業務を効率化している)	試行工事以外 (監督業務を効率化していない)
出来形 (13.9点 / 100点)	10.6 ± 0.9 点	10.7 ± 0.9 点
品質 (15.9点 / 100点)	11.5 ± 1.6 点	10.9 ± 1.2 点
出来映え (8.5点 / 100点)	7.0 ± 0.5 点	7.1 ± 0.4 点
総合評点	75.6 ± 5.2 点	74.7 ± 4.3 点

(調査対象:「試行工事 52 件」と、ISO 認証取得者による「試行工事以外の工事 60 件」を比較対照)

【参考】 試行工事における品質の比較 〈一般競争〉
(監督職員へのアンケート結果から)

監督業務を効率化(試行工事)しても、「品質が
従来と同等又はそれ以上」とする監督職員の割合: **100%**

品質面への影響について 《公募型・工事希望型》

H12～H14に、公募型については148件(3%)、工事希望型については28件(0.4%)のISO9001試行工事を実施した
 試行工事においては、監督業務の効率化に伴う品質面への負の影響は認められなかった【表 - 3、4】

【表 - 3】 試行工事における工事成績評点の比較 《公募型》

工事成績評点	《公募型》	試行工事 (監督業務を効率化している)	試行工事以外 (監督業務を効率化していない)
出来形 (13.9点 / 100点)		10.9 ± 1.1 点	10.5 ± 1.2 点
品質 (15.9点 / 100点)		11.9 ± 1.7 点	10.7 ± 1.6 点
出来映え (8.5点 / 100点)		7.2 ± 0.6 点	7.5 ± 2.0 点
総合評点		76.3 ± 5.7 点	73.1 ± 3.8 点

(調査対象:「試行工事 85 件」と、ISO 認証取得者による「試行工事以外の工事 1307 件」を比較対照)

【表 - 4】 試行工事における工事成績評点の比較 《工事希望型》

工事成績評点	《工事希望型》	試行工事 (監督業務を効率化している)	試行工事以外 (監督業務を効率化していない)
出来形 (13.9点 / 100点)		11.1 ± 0.9 点	11.0 ± 1.0 点
品質 (15.9点 / 100点)		10.7 ± 1.6 点	10.5 ± 1.6 点
出来映え (8.5点 / 100点)		6.9 ± 0.6 点	7.1 ± 0.7 点
総合評点		75.1 ± 4.3 点	74.6 ± 4.4 点

(調査対象:「試行工事 21 件」と、ISO 認証取得者による「試行工事以外の工事 647 件」を比較対照)

【参考】 試行工事における品質の比較 《公募型・工事希望型》

(監督職員へのアンケート結果から)

監督業務を効率化(試行工事)しても、「品質が
 従来と同等又はそれ以上」とする監督職員の割合: **97%** 《公募型》
80% 《工事希望型》

監督業務の効率化について 〈一般競争・公募型・工事希望型〉

一般競争入札においては、段階確認等の監督業務を「請負者の検査記録」の確認等に置換えることにより、監督業務の効率化がほぼ図られている【表 - 5】

【表 - 5】 試行工事における監督業務の効率化の比較

試行工事において監督業務に要する時間が、「従来と比べて同等又はそれ以下」となった比率（効率化が図られた比率）

< 監督職員対象 >	一般競争	公募型	工事希望型	平均
定量的比較	93% (62 / 67)	90% (55 / 61)	67% (12 / 18)	88% (129 / 146)
定性的比較	89% (24 / 27)	81% (25 / 31)	60% (3 / 5)	83% (52 / 63)

< 請負者対象 >	一般競争	公募型	工事希望型	平均
定量的比較	75% (50 / 67)	57% (35 / 61)	50% (9 / 18)	64% (94 / 146)
定性的比較	83% (20 / 24)	73% (22 / 30)	100% (4 / 4)	79% (46 / 58)

【定量的評価】段階確認等に要した時間を測定して比較（従来の立会時間については想定）

【定性的評価】監督職員、請負者に対し、「従来と比較して監督業務の効率化が図られたかどうか」についてのアンケート結果による（有効回答数を分母とする）

調査対象：（定量的評価）アンケート回収分のうち、監督職員・請負者双方において、監督業務に要した時間が測定できる工事 146 件を対象

（定性的評価）監督職員、請負者に対するアンケート結果のうち、全て適用工事マニュアル通りに運用されている工事 63 件、58 件を対象

施工計画書・品質計画書の重複について

施工計画書と品質計画書の重複については、「公共工事等へのISO9000シリーズの適用について」（平成13年4月24日付け通達）により、「相互に参照してよい」とすることで重複を排しているところである

当該措置により、概ね重複の排除が図られているところであるが、請負者の29%が「重複記載がある」としていることから、今後当該措置の徹底が必要【表 - 6】

【表 - 6】品質計画書・施工計画書において内容が重複する部分の取扱い

	いずれかの計画書に記載	両計画書に重複して記載
重複の取扱い	71% (126 / 178)	29% (52 / 178)

【参考】請負者に対するアンケート調査(平成14年度)

質 問

「品質計画書と施工計画書の内容が重複する部分の取扱いは？」

回 答

選択肢	回答数 (比率)
主として品質計画書に記載 施工計画書はこれを参照	14 (8%)
主として施工計画書に記載 品質計画書はこれを参照	81 (46%)
両計画書を相互に参照	31 (17%)
両計画書に重複して記載	52 (29%)
その他	4 (2%)
合 計	178 (100%)

「重複して記載した理由」

- ・ 施工計画書と品質計画書は基本的に使用する目的が異なるので、重複があったとしても、それぞれを使用する場面で一冊にまとまっているため便利であるから
- ・ 一冊の中で一連の流れを理解できるため
- ・ 品質計画書は社内の規準により作成するため